AMDA Journal －国際協力－ 2009年 秋号 □2009年10月1日発行 1995年11月27日 第三種郵便物認可

季刊
AMDA Journal
多様性の共存

2009年10月1日 VOL.32 No.4 定価600円
発行／AMDA 〒701-1202 岡山市北区楢津310-1
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail:member@amda.or.jp

2009.10
AUTUMN
秋

緊急救援 ◇ 救える命があればどこへでも

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人AMDA社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

カトマンズから375キロ西に位置するベリ県ジャジャルコット郡（オレンジ色印）

感染地域で聞き取りを行う朴医師

ネパール中西部下痢疾患蔓延に対する医療支援活動

ネパール連邦民主共和国の首都カトマンズから375キロ西に位置する中西部ベリ県のジャジャルコット郡とその周辺地域で、今年5月頃から水性下痢疾患の大発生があり、8月3日までに、約38,000人が治療を受け、241人が死亡しました（WHO発表）。

ジャジャルコット郡は、最も近い空港から徒歩で4時間かかるアクセスの悪い、貧困地域です。感染の大発生は、汚水に起因し、衛生知識の欠如と衛生習慣の悪さが、これに追い打ちをかけました。地域では男性が仕事を求めて街に出ていることから、女性と子どもに感染者が多かったようです。

下痢疾患患者を診察する朴医師

AMDAネパール支部は、この状況を鑑み、感染地域にて医療救援を行うことを決定し、AMDA本部への支援要請を出しました。これを受け、本部では、7月29日、岡山からスタッフを派遣することを決定。AMDAと連携協定を結んでいる岡山大学から熱帯医学の専門家である医師1人とAMDA本部から調整員1人とが、感染地域に入り、既に感染地域に入って活動を開始したネパール支部スタッフと協力して、感染者の治療と衛生環境の改善にあたりました。

下痢疾患の感染状況は、最終的には死者が250人を超えたものの、最も感染が広がっていたジャジャルコット郡とルクム郡では、致死率が1%以下と許容レベルとなり、同様に流行曲線も下降傾向となり、ひとまず感染が抑えられたことから、活動を終了し、岡山から派遣されたAMDAスタッフは、8月9日帰国しました。

【派遣者】
朴 範子 医師 岡山大学病院救急科 岡山市在住
ロンドン大学衛生学・熱帯医学大学院修士（熱帯医学・国際保健）
ニティアン ヴィーラバグ 調整員 AMDA本部職員 岡山市在

本号9P～ 2008年度 年次報告書

ネパール中西部下痢疾患蔓延に対する医療支援に参加して

岡山大学病院救急科　朴　範子

2009年7月31日から8月9日まで、ネパール中西部下痢疾患蔓延に対する医療支援に参加する機会をいただきました。AMDAと岡山大学の協定により、派遣要請があったのですが、以前から途上国での医療支援に興味があったことから、喜んで参加させていただきました。

7月31日、私とAMDA本部の調整員は岡山を出発し、8月1日、カトマンズに到着。翌2日、AMDAネパール支部スタッフとミーティングをしました。

ミーティングでは、ネパール中西部ベリ県ジャジャルコット郡へのアクセスが大変困難であることが分かりました。まず、カトマンズからジャジャルコット郡近郊のスルケット郡までは国内便で、その後は、運が良ければ、ジャジャルコット郡までヘリコプターで移動。そうでなければ、雨期のため道路状況の悪い中をバスかタクシーで移動し、更に20時間くらい歩かなければならないとか…その後は、既に派遣されているネパール支部の医療助手4人からなる先発チームと合流するため、ジャジャルコット郡パダル村に向かうとのことでした。

3日、ネパール支部のMadu医師とネパール人ジャーナリスと共に、スルケット郡に到着。地元保健当局のディレクター、Pathak医師とミーティングをしました。事務所には下痢疾患対策室が設立され、罹患者は減りつつあり、状況は落ち着きつつあると説明を受けました。同日夕方訪れたスルケット郡の地域拠点病院でも、罹患者は減っていると説明を受けました。4日、Pathak医師の尽力により、ヘリコプターでジャジャルコット郡立病院に向かうことができました。そこでも同様に、状況は落ち着きつつあり、下痢疾患の受診・入院患者数も減ってきているとのことで、状況は改善されつつありました。しかしながら引き続きモニタリングは必須であり、1か月前からパダル村で対策にあたっている医療チームの交代として、ネパール支部に派遣要請があったようでした。ヘリコプターでパダル村に移動したところ、既に人員が足りていることが分かり、また、セキュリティ上の懸念から、ネパール軍が運営する医療キャンプのあるサルマ村でモニタリングを行うことになりました。この村の医療キャンプには、2人の軍医が滞在し、状況は改善しつつあると聞きました。

今回蔓延した下痢疾患患者数人の便からコレラ菌が検出されたとの報道がありましたが、我々が接触した関係者らは、大腸菌などのコレラ菌以外の細菌や原虫による混合感染も視野に入れて活動しているようでした。感染ルートに関しては諸機関が調査をしており、いくつかの地域で水源も同定されたという報告がありましたが、感染は中西部地域全体に広がっていることから、どのような経路で伝播したのか、同定は困難と思われました。最初の症例は5月3日に報告されていたとのことですが、散発的に発生しており、交通アクセスの悪さや電話など通信手段が一切ない状況が対応の遅れに大きく影響したようでした。さらに悪いことには、雨期が重なり、雨で川が増水すると川を横切る道路は一切使えなくなり、物資や人の行き来を更に困難にしました。このような困難な地域であるため、必要な医療資源を迅速に頒布するには、ヘリコプターを使う方法しかありませんでした。この地域はネパールでも特に貧しい地域であり、各家庭には電気もトイレもないという生活環境の悪さに加えて、衛生環境も非常に悪かったことが感染を蔓延させた原因であったと思われました。

診療面からは、感染状況が落ち着いてきており、それほど罹患者がいなかったこと、またネパール人医師のサポートなしでは医療行為が行えなかったことから、貢献する機会はあまりありませんでしたが、日ごろ享受しているサービスのありがたみを改めて感じさせられました。例えば、歩いて4時間以内に診療所があれば非常に恵まれている、という医療へのアクセスの悪さには日本で連日報道されている医師不足や僻地での医療従事者の必要性とは比べようもなく、言葉もありませんでした。

帰りは悪天候のためヘリコプターが飛ばず、最寄の幹線道路まで6時間歩いた後、バスに乗り、スルケット郡に向かう予定でしたが、川の増水の為、バスが止まり、馬の背に乗って川を渡るという経験もしました。途中、予定通り日本に帰って来れないのでは、と気をもみましたが、同行のネパール人ジャーナリスト他の尽力により、予定通り帰国できました。振り返ってみるとネパールには8日間滞在しただけだったですが、この地域の生活がいかに困難であるか、ということを身をもって体験し、最低限必要な医療もなかなか受けられないという状況に加えて、人々が必死に働いているにもかかわらず貧困が解消されず日々の生活にも非常に困っているという状況を日本の皆さんに伝えなければならないと強く感じました。

静岡県・袋井市総合防災訓練

8月29日、東海地震を想定した静岡県総合防災訓練に参加しました。今年は、8月11日に最大震度6弱の地震が発生し、路面崩落のため高速道路が通行止めになるなど被害のあった袋井市で開催されました。AMDAは、98年から静岡県総合防災訓練に参加し、近年は、重症患者を航空機などで被災地外の医療機関に搬送する「広域医療搬送訓練」に参加してきました。今年は、地震発生後に設置される救護所に県外組織として応援に入り負傷者をトリアージする「救護所トリアージ訓練」に参加しました。

救護所は、東海地震など大規模な地震発生直後、地域の診療所が閉鎖される替わりに、小学校や公民館に設置されます。運営は、主に地域の医師、看護師が担います。大災害発生時には、医療従事者の対応能力を超える多くの負傷者が発生します。そのような状況に対応するため、救護所では、負傷者を重症度や緊急度に応じて振り分け、治療に優先順位をつけるトリアージを実施し、重症患者や中等症患者を、医療設備の整った救護病院や県外災害拠点病院などに搬送するよう連携します。AMDAは、本訓練において、ドクターコマンダーを務めるなど救護所のリーダーとして静岡県看護協会と協力し、約1時間半の間に80人以上の模擬患者をトリアージする訓練に参加しました。

AMDAは、これまで国内の大規模災害に対し、95年の阪神大震災では神戸市長田区に医療従事者を派遣し負傷者の診療にあたり、04年の中越地震・07年の中越沖地震では特別養護老人ホームなどに介護福祉士や看護師を派遣し施設応援をしてきました。本訓練では、救護所でのトリアージという国内災害の新たな活動に向け経験を蓄積することができました。袋井市には、救護所の運営の仕方等についてノウハウを提供し、模擬患者役を務めた市民に対しては、訓練後に実施した講習会を通じ救護所に来るまでの応急処置法や災害時に市民ができることについて啓発しました。今回は、連携協定を結んでいる岡山大学から医師3人、また、AMDAのERネットワークから医師2人、看護師2人とバランス良く参加があり、今後の活動に向けてネットワークの強化を図ることもできました。

搬送されてくる模擬患者をトリアージするAMDA医師

【日時】2009年8月28日（活動準備打ち合わせ）、29日（訓練）
【訓練内容】 救護所トリアージ訓練及び医療搬送訓練
【場所】 静岡県袋井市山名公民館
【参加者】
- 寺戸通久医師（岡山大学医療教育統合開発センター／岡山大学病院救急科）
- 多田圭太郎医師（岡山大学病院救急科）
- 安井一貴医師（岡山大学病院）
- 細村幹夫医師（埼玉県・医療法人康麗会　越谷誠和病院／ERネットワーク登録）
- 袴田晃央医師（静岡県・磐田市立総合病院／ERネットワーク登録）
- 鵜野明美看護師（京都府・医療法人医仁会　武田総合病院／ERネットワーク登録）
- 生湯絵実子看護師（ERネットワーク登録）
- 谷口敬一郎（本部職員）

2009年7～8月の動き

＜講演＞		
7月9日	鏡野町立奥津小学校	総合学習
7月15日	（特活）ピースビルダーズ	OSIPP国連政策セミナー
7月23日	おかやまコープ美作エリア委員会	おかやまコープ美作エリア委員会
7月31日	全国自治体病院開設者協議会岡山県支部	第48回全国自治体病院協議会中国・四国地方会議
8月4日	平成21年度岡山県小学校養護教諭夏期研修会実行委員会	岡山県小学校養護教諭夏期研修会
8月5日	新見市教育研究会	教育講演会
8月11日	中国五県高等学校教頭・副校長会協議会	岡山県公立高等学校教頭会
8月18日	メディカ大阪	国際医療協力講演
8月22日	岡山県教職員組合	日教組中四国ブロック幼児教育研究会集会
8月30日	(社福)石井記念友愛社	石井十次交流会
＜事業＆イベント＞		
7月6日	国連経済社会理事会「世界の公衆衛生」会議	国連欧州本部にて
7月25日	AMDA社会開発機構活動報告会	ホンジュラス事業
7月26日	ぴぜん一宮桃太郎フェスティバル	岡山市北区吉備津彦神社にて
7月28日	ネパール下痢疾患蔓延に対する緊急医療支援開始	7/28ネパール支部活動開始　7/31日本からの医療チーム岡山発
8月9日	ネパール下痢疾患蔓延に対する緊急医療支援終了	8/10医療チーム岡山着
8月24日	ASMP: AMDA Soul & Medicine Program	モンゴル慰霊祭
8月26日	高知大学医学部	連携協定調印式
8月29日	静岡県袋師市総合防災訓練	8/28訓練参加者静岡県入り

静岡県袋井市に於ける災害訓練に参加して

岡山大学医学部医療教育統合開発センター 岡山大学病院救急科　寺戸　通久

8月29日、静岡県袋井市で行われた総合防災訓練にAMDAの一員として参加させて頂きました。

訓練参加メンバーは、岡山大学から私他2人の医師（多田、安井）、埼玉県から細村医師、静岡県磐田市から袴田医師、京都から鵜野看護師、横浜から生湯看護師、AMDA本部から谷口調整員という混成8人編成でした。編成で医師が比較的多いのは、本来救護所での訓練を主導する磐周医師会が参加出来ないということで、我々が代わって総合指揮を執ることになったためです。

災害には、Triage（トリアージ）、Treatment（手当て）、Transportation（搬送）の頭文字を取った災害医療の3Tというキーワードがあります。災害現場近くにはトリアージスポットという被災者分別所を配置し、そこでトリアージタッグという簡易カルテ札を使用して、押し寄せてくる被災者の重傷度、緊急度を選定分別していきますが、この選別をトリアージと呼びます。最重傷は赤色、他者の介助を要する傷病者は黄色、自分で行動可能な程度の傷病の場合は緑色に色分けし、それぞれの治療ブースに誘導していきます。各ブースには必要性に応じた医療資源が配置され、各医療機関への搬送に耐えうる程度の応急処置を施された後に、搬送が行われます。

搬送されてくる模擬患者をトリアージする寺戸医師

このトリアージタッグは、昨今「黒タッグ問題」として取り上げられることが多くなっています。黒タッグは、災害現場で既に死亡確認された被災者に付けられるタッグであり、また救護所で出来る限りの治療を行っても、或いは出来る限り迅速な搬送を行ったとしても到底助けることが出来ないと判断される超重傷者に対しても付けられるタッグです。平時の感覚からすると、「もしかしたらその時にもっと医療資源を投入していれば、或いは助かったかもしれない」という、多くは遺族の方々から寄せられる無念の思いに焦点が当たるタッグです。我々医療者も、通常出来る限り、一縷の望みでもあればそれに懸けて救急治療を行っていますので、思いは同じです。しかし、救急医療と災害医療の大きな違いは、災害医療の場合、「最大多数を救助救命する」ことが最も大切である、とされているところにあります。この場合、平時に於いてでさえ助かるかどうか判らないような、極めて重傷な方の治療に多くの医療資源を割くことより、助かる見込みが十分ある方を出来るだけ多数助ける為に医療資源を割くことが優先されるべき、とされます。忸怩（じくじ）たる思いはタッグをつける側も同じです。黒タッグを付けることにまつわる責任や、事後の十分な検証と緊急避難の適応などについて今後も議論され得る問題だと思います。

さて今回の訓練では、被災地直近に設置するトリアージスポットの運営、緊急救護所の管理（治療ブースの設置運営）、各医療機関への搬送順位決定と搬送スポットまでの患者担送、というところまでを、AMDAチームに加え地元医師1人、静岡県看護協会から看護師・保健師総勢20人、静岡県から事務係員3人という混成チームが対応することになりました。私は医療責任者（ドクター・コマンダー）として、トリアージスポットから全体を管轄する役割を担いました。

AMDAチーム以外の参加者とは、当日全くの初対面でした。現実に災害が起こった場合、被災地で各医療チームが初対面のまま活動を起こすということは十分にあり得ることですので、30人を超える編成をいきなり統括管理することには戸惑いを覚えましたが、得難い経験になりました。参加された皆さんも思いは同じのようで、訓練開始前の説明は30分程度しか出来ませんでしたが、概念を理解・判断して有機的に行動していただけたので、予想以上にスムーズに訓練は進行していきました。

およそ150人近くの被災傷病者と付添者が続々とトリアージスポットに押し寄せる様子は壮観である一方、乱気流に巻き込まれたような異常環境であり、現場対応訓練として経験しておくべき「管理されたパニック」でもあります。ボランティアの方々の迫真の演技に気圧されながら職務を遂行する難しさを実感しました。

訓練自体はほぼ半日で完了しましたが、机上計画からは見えてこない様々な改善点が見つかり、有意義な訓練であったと自負しています。

拙文をお読み頂いている皆様の多くは、災害やボランティアに興味をお持ちの方々だと思います。あなたがいざ災害の現場に立ったときに何が出来るか、はこのような訓練に参加することで初めて見いだせると言っても過言ではないと思います。訓練の時に出来ないことは、絶対に本番でも出来ません。自分がどこまで出来るのか、自分の参加する訓練ではどこまでが可能なのか、いざというときの備えとして、是非近隣で開催される災害訓練に積極的に参加してみて下さい。また、百聞は一見に如かず、といいます。見学されるだけでも、大きな経験になると思います。次の災害訓練現場では皆様にお会い出来ることを願って止みません。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さったAMDAの皆様、静岡県袋井市の皆様に深い感謝の意を捧げます。ありがとうございました。

AMDA 玉野クラブ
バングラデシュ訪問記

AMDA 玉野クラブ代表
竹谷　和子（岡山県玉野市立東児中学校教諭）

子どもたちと七夕飾りを作る筆者

8月3日、バングラデシュ首都ダッカへ到着。今回で6回目の訪問です。AMDAバングラデシュ支部ディレクターのラザック氏と滞在予定9日間の打ち合わせ後、彼の家に滞在しました。主な活動場所であるダッカに隣接するムシゴン市のガザリア地区で、学生や教育関係者と教育・文化交流、昨年度から取り組んでいる「ゴミを少なくする運動」においてさらなる取り組みの啓発、勤務校である玉野市立東児中学校からバングラデシュ支部への支援金の贈呈等をおこないました。2007年、東児中とガザリア・テンガッチョハイスクールとの間に連携協定を結び、両校生徒がお互いの国に対して、またお互いの学校や生徒達に興味関心を強めています。今回東児中生徒達が作製した折り紙・絵・習字・カードを贈呈し、とても喜んでいただきました。また日本語を教えて欲しいとの要望があり、簡単なあいさつを紹介しました。現地の人々の関心が高まってきていると感じました。他にも日本の七夕行事を紹介し、現地の人々と七夕飾りを作り楽しんでいただきました。昨年提案したゴミの問題に対しては、事務所や学校にきちんとしたゴミ箱が設置され、ゴミを捨てない意識を持ってもらえたのがうれしかったです。訪問を重ね、国際支援のあり方を再考する時期にきていると感じます。本当に意味のあるそして継続できる国際協力を目指し、「AMDA玉野クラブとしての活動」という位置づけで継続できるよう努力していきたいと思っています。バングラデシュ支部の新たなプロジェクトに、コミュニティラジオの開設があります。地域の防災情報の提供などとても大切な情報発信の場として、同国の関係省庁から設置の許可がおりました。開設するには多大な資金が必要であることから、今後玉野クラブもこのプロジェクトの支援を中心に進めていきたいと考えています。

― AMDA 玉野クラブ活動報告 ―

AMDA玉野クラブが4月に発足し5ヶ月が経ちました。その間の主な活動を紹介します。本クラブは地域の人々と共に主にバングラデシュを対象に国際協力支援をしていこうという目的で活動をしています。発足当初3人からのスタートでしたが、現在11人にメンバーも増え、地域の人々に活動目的、活動状況を紹介し協力していただけるよう働きかけています。4月はAMDA本部近くで開催された「あすか健康村フェスティバル」、8月には児島でのイベントに参加しバングラデシュ・カレーを作り、出店販売しました。また8月には地元東児地区の夏祭りに参加し、来場者にパネルや写真等で本クラブの紹介をしたり、募金やバザーをおこないました。今回の募金やカレーの売り上げ等は、バングラデシュのコミュニティ・ラジオ開設への支援にしたいと思っています。皆様方のご協力よろしくお願いします。

＜連携協定＞　高知大学医学部との連携協定調印式

8月26日、国立大学法人高知大学医学部とAMDA(特定非営利活動法人アムダ)との間で、医療、保健、自然、環境、文化、教育の分野において連携・協力し、地域社会及び国際社会への貢献と人材育成に寄与することを目的に、協定書が取り交わされました。

高知大学医学部との連携協定調印式
右から、医学部国際連携推進委員会委員長小林教授、脇口医学部長、菅波AMDA代表、前田医学部病院事務部長

「就活でできる身近な国際貢献」AMDAサポート・プログラム開始

地元密着型の学生対象就職サイト、オカジョブを運営する株式会社シーズ様（本社岡山市）のご協力により、「AMDAサポート・プログラム」が開始されました。

仕組みは、2010年1月31日までの期間中、就職活動をする学生が、シーズ様の運営するオカジョブ・カガワジョブ・ビンゴジョブ2011のいずれかのサイトから、新規会員登録すると、自動的にシーズ様からAMDAに募金されます。学生には、負担はかかりません。就職活動中の学生の皆さん、「就活でできる身近な国際貢献」を始めてみませんか？

「就活でできる身近な国際貢献」
AMDAサポート・プログラム

AMDAと株式会社シーズ

株式会社シーズ　代表取締役　平川　清高

株式会社シーズは、この12年間、岡山を中心に地元就職を希望する学生の皆様のサポートをさせて頂いて参りました。また、昨年より香川県、また福山市を中心とした備後地方の地域特化型就職サイトもオープンし、ますます、そのフィールドは拡大しています。

そうした中で、地域に根ざした会社である弊社の社会貢献の一環として、岡山を拠点に世界で活躍されているAMDA様にご協力いただき、「AMDAサポート・プログラム」の実施を決定しました。このプログラムを通し、一人でも多くの学生の皆さまに賛同いただき、身近な国際協力、また社会貢献の一助となればと思います。ぜひ、ご協力をよろしくお願いします。

【AMDAサポートプログラム】
https://okajob.com/2011/article?eid=194&blog=shukatsu

特定非営利活動法人 AMDA社会開発機構

AMDAグループの一員として、世界7カ国の農村地域や都市スラムにおいて、地域住民の貧困削減や健康増進を目指した社会開発事業を実施しています。

〒700-0818 岡山市北区蕃山町4-5
岡山繊維会館3階
電話: 086-232-8815　FAX: 086-232-7668
Email: info@ml.amda-minds.org
http://www.amda-minds.org/

特定非営利活動法人 AMDA国際医療情報センター

ホームページアドレスが変わりました。
http://amda-imic.com/

ご好評頂いている母子保健ビデオ（スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語、日本語）が、1本1,575円（送料別）とお求めやすくなりました。外国人が日本で出産・育児をする際の基礎知識や福祉制度など、必要な情報が収録されています。

数に限りがございますので、お早めにお求めください。
ご注文・お問い合わせ：
センター東京 03-5285-8086 / センター大阪 06-4395-0555

■AMDAプロジェクト ご支援のお願い

ご寄付の際には、郵便払込取扱票をご利用ください。

指定寄付の場合には、連絡欄に、活動実施国名あるいは事業名をご記入ください。

※郵便振替
口座番号　01250-2-40709
口座名　AMDA

- **AMDA支部（国内）**
  - AMDA神奈川支部
  - AMDA兵庫県支部
  - AMDA沖縄支部
- **AMDAクラブ**
  - AMDA鎌倉クラブ（神奈川県）
  - AMDA高知クラブ（高知県）
  - AMDA福山クラブ（広島県）
  - AMDA竹原クラブ（広島県）
  - AMDA神女クラブ（兵庫県）（神戸女子大）
  - AMDA玉野クラブ（岡山県）
  - AMDA夕張クラブ（北海道）
- **AMDA高校生会**

緊急救援活動への参加を希望される方の登録制度 AMDA「ERネットワーク」のご案内

自然災害、紛争等による被災者に迅速に対応するため、登録制度「ERネットワーク日本」を整備しています。緊急救援活動派遣を希望される方（医師・看護師・助産師他）は、ご登録をお願いします。なお、ご登録者には緊急救援初動の際にお声をかけさせていただきますが、登録により活動参加義務が発生することはありません。登録に関するお問い合わせは下記にお願いします。

特定非営利活動法人 アムダ
〒701-1202　岡山市北区楢津310-1
TEL 086-284-7730 FAX：086-284-8959
E-mail member@amda.or.jp

「お役に立ちたい」その思いがひろがる活動をめざして

おかやまコープ　加戸智津子

おかやまコープでは、組合員さんの「お役に立ちたい」という思いをかたちにする活動として「AMDA」への協力支援をすすめ、12店舗での募金箱の設置やさまざまな活動の機会を通じてAMDA募金に取り組んでいます。

2007年から10月を「おかやまコープAMDA募金月間」として組合員に募金袋を配布し、組合員さんから多くの募金が寄せられています。今年の募金袋には、2010年度よりすすめることになる「AMDA社会開発機構」のザンビアプロジェクトへの協力支援についてお知らせをしています。募金月間に向けては、組合員に取り組みの内容や意義を広くお知らせするために「AMDA」学習会やパネル展示などを行っています。最近では、ボランティアセンター長の小池さんに津山市まで出かけていただき、AMDAの設立、歩み、支援活動等について映像をまじえてお話していただきました。参加者からは「私たち一人ひとりの力は小さいけれど、その力が合わされば何かできるよね」という声が寄せられています。その他、月間中の1日から7日まで、コープ総社東店舗内でAMDAパネル展を開催し募金を呼びかけることになっています。また、去る8月17日には、おかやまコープが主催して親子ふれあいキャンペーンとしてミュージカル公演を行い、多くの家族連れの参加がありました。会場となった岡山市民会館ロビーには、おかやまコープの国際協力支援活動を紹介するブースを設け、AMDAからお借りしたパネルを展示し、見ていただきました。コーナーには親子でパネルを見つめている様子や小さな手で募金をしてくれる子どもたちの姿がありました。おかやまコープでは、このような取り組みをすすめ、岡山発の国際協力支援がさらに広がることをめざしています。

Panasonic ハートフルクラブ

福利厚生ポイントを社員が選んで寄付

パナソニックの企業市民活動

「持続可能な社会へ向けて」

創業以来、当社は、「製造業の本分に徹し、モノづくり（商品）で、人々の豊かなくらし、社会の発展に貢献する」ということを経営理念とし、長年にわたって大切にしてきました。その根本にはCSRそのものとも言うべき「企業は社会の公器」との考えがあります。同時に、当社は「ユビキタスネットワーク社会の実現」と「地球環境との共存」を2大事業ビジョンとしています。地球規模の課題解決に向け、事業活動のみならず幅広い企業市民活動を展開しています。

環境を守る活動として植林をする社員

「育成と共生」

企業市民活動の活動理念は、「育成と共生」です。「次世代育成支援」と「環境」という2つを重点分野として、世界各地の社員が継続性のある企業市民活動に取り組むと同時に、一企業としてだけではなく、NPOやNGOとの協働、社員一人ひとりのボランティア活動の支援なども積極的に進めています。

「Panasonic ハートフルクラブ」

「もっと簡単に企業市民活動に参画が出来るプログラムを提供して欲しい」。社員からの声を受けて2007年3月より社員向け福利厚生の仕組みである「カフェテリアプラン」のメニューとしてスタート。社員は持ちポイントから支援先を選んで寄付を実施。AMDA様は2009年度から本プログラムの支援対象としてご協力いただいています。

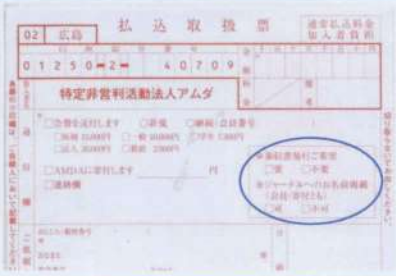
「これから」

近年、経済のグローバル化は飛躍的に進展し、既に企業活動に国境はありません。私たちパナソニックはこれまで以上に世界に目を向け、グローバルな社会への貢献を意識する必要があると考えています。その際にグローバルに専門的な活動を推進する貴団体には多大なるご支援をいただきたく考えております。

AMDAの郵便振替用紙ご記入にあたって

AMDAでは郵便振替用紙の右欄で、「領収書発行」ならびに「ジャーナルへのお名前掲載」のご希望を伺っています。一度チェックを入れていただきますと、以降、変更があるまで継続いたします。ご不明な点がありましたらAMDAまでお問合せください。

例えば、「ジャーナルへのお名前掲載」では、一度【不可】にされますと【可】のチェックをいただくまでAMDAジャーナルでは【匿名】になります。



2008年度総括

AMDAグループ代表　菅波　茂

「困った時はお互いさま」に代表される「相互扶助」が日本の常識であることは1995年1月に発生した阪神大震災に百万人からのボランティアが神戸にかけつけたことで証明されました。その年は、メディアにより「ボランティア元年」と命名されました。わずか4ヶ月後に発生したロシア・サハリン大地震被災者救援プロジェクトや1996年2月に発生した中国雲南大地震緊急救援プロジェクトも「相互扶助」の考え方のもとに、両国がAMDA医療チームの受け入れに門戸を開いてくれました。「相互扶助」が日本の常識のみならず世界の良識になると確信した瞬間でした。

「相互扶助」による尊敬と信頼の国際ネットワークの構築はAMDAの使命であり、「救える命があればどこへでも」のスローガンで緊急救援を行うAMDA多国籍医師団がその象徴です。国際ネットワークの拡充こそが、AMDA多国籍医師団による緊急人道支援活動をより迅速に、より効果的にします。2008年度の3つの大きな動きを紹介します。

最初は、2008年7月にアフガニスタン支部が発足したことです。ラヒミ新支部長はAMDAが2002年にアフガニスタン・カンダハールの難民キャンプで、巡回診療活動を実施した際の現地NGOのコーディネーターとして活躍していました。現在、アフガニスタンの紛争は泥沼化していますが、近い将来、復興に向けて日本が積極的に支援を開始する時にはAMDAも必ず参加します。首都カブールがAMDAの活動する地域となります。

2番目が、2009年2月にAMDAと連携協定を結んでいるマニパール大学と緊急救援研修プログラム協力協定を締結したことです。マニパール大学は今までにインド大陸やインドネシアなどで発生した大災害にAMDA多国籍医師団として緊急救援医療チームを積極的に派遣してくれています。AMDAは、マニパール大学を南西アジアにおける地域災害センターとして位置づけています。21世紀を中国と共に担うインドとの本格的連携です。その一環としての緊急救援研修プログラム協力協定は人材育成プログラムとして大きな成果が期待されています。

3番目が、台湾国際医療支援チームとの災害協力協定です。この団体は台湾外交部（外務省）と衛生部（厚生省）直下の団体として2006年2月に発足しています。台湾政府と民間医療機関との協力機構です。中南米、アフリカそして太平洋諸国で数多くの実績を積んでいます。AMDAの「相互扶助」と台湾の「義」との連携になります。日本人に理解しがたい中国人の真の助け合いの精神である「義」を勉強したいと思っています。世界人口の約2割を占める中国人との連携の貴重な第一歩です。

最後に、うれしい報告です。2006年8月に認定された国連経済社会理事会総合協議資格が動き始めました。2009年3月に国連経済社会理事会とスリランカ政府が共同開催した「保健医療財務戦略に関わる地域閣僚会議」に招待されました。総合協議資格は政策提案できる資格です。「相互扶助」の視点から、国連と各国政府の政策形成会議にて積極的に関与していきます。

2009年はAMDAが1984年に創設されてから25周年になります。AMDAグループも5団体*になりました。ここまで来られたのも皆様方のご支援の賜物と本当に感謝しています。今後も皆様方のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

* AMDA、AMDA社会開発機構、AMDA国際医療情報センター、アムダ国際福祉事業団、アムダインターナショナル

緊急支援活動

■ミャンマー・サイクロン被害に対する緊急支援活動

活動国・地域：ミャンマー連邦ヤンゴン管区クンジャンゴン市
期間：2008年5月5日から6月16日

外国のNGOとして初めて日本人医療スタッフも加わり診療

2008年5月2日から3日にかけて、大型サイクロン「ナーギス」がミャンマー連邦南部を通過しました。ミャンマー政府によると、死者84,537人、行方不明者53,836人、被災者全体の数は240万人に上る大きな被害となりました。AMDAは、被害の大きさに加え、1995年から同国にて保健・医療活動を継続していることから、直ちに支援活動を開始しました。

活動は、同国で保健医療活動を実施しているグループ団体、AMDA社会開発機構が中心となり、地域住民と協働しながら実施。ミャンマー政府保健省、クンジャンゴン市保健局との協議の後、甚大な被害を受けたクンジャンゴン市（ヤンゴンから約70キロ南に位置）で活動することに決定しました。地域住民と協働する形で実施する巡回診療、感染症予防を目的とした石鹸・水フィルター・浄化剤などの衛生用品配布と保健衛生教育、調理器具や衣服などの生活支援物資の配布、クンジャンゴン市総合病院への医療消耗品の供与を実施しました。

巡回診療には、海外NGOとして初となる日本からの派遣医療チームも参加しました。活動結果として、クンジャンゴン市の人口の約3分の1に診療機会を提供し、6,110人を診療、115人の児童への検診も実施しました。その他、約6,000人に感染症予防教育を実施し、同時に石けんも配布しました。約300人には水フィルター・浄水剤を、家財一式を失った50世帯には鍋やお皿などの生活用品セットを配布しました。

＜裨益者の声＞

「日本のお医者さんと話せてよかった。この村で何があったのかを知ってもらえてよかった」(診療を受けた高齢の被災者より)

＜派遣者の声＞

「私は今まで、本当に困っている人に出会えていなかったのではないか、と思います。彼ら（サイクロン被災者）にこそ、救援の手は差し伸べられるべきだと思います。わずかではありますが、差し伸べる手になり得たこと…非常に感謝しています。」(岡山大学医療教育統合開発センター医学教育部門助教／岡山大学病院救急科　寺戸医師より)

＜派遣者・参加者＞

医師：細村幹夫（埼玉県・医療法人康麗会　越谷誠和病院）、寺戸通久（岡山大学医療教育統合開発センター助教／岡山大学病院救急科）、スェスェ・タン（岡山大学医歯薬総合研究科生物科学講座博士課程）
看護師：小堀他津子（医療法人アスカ会）
調整員：谷口敬一郎（本部職員）
事業責任者：鈴木俊介（AMDA社会開発機構理事長／AMDA理事）
事業統括：竹久佳恵（AMDA社会開発機構）
調整員：畑山ゆかり（AMDA社会開発機構）
AMDAミャンマー（20人）、ミャンマー保健省（3人）、クンジャンゴン市保健局チーム（5人）

＜協力機関＞

ミャンマー政府保健省、世界保健機関、岡山大学他

■中国四川省地震被害に対する緊急医療支援活動

活動国・地域：中華人民共和国四川省徳陽市、綿陽市、成都市他
期間：2008年5月12日～6月30日、2008年8月23日～年10月23日

岡山大学汪達紘医師は被災者の心理カウンセリングに従事

2008年5月12日、中国四川省の中心都市、成都の西北西90キロに位置するブンセン県付近でマグニチュード8.0の地震が発生しました。国連人道問題調整事務所によると、5月30日時点で死者68,858人、負傷者366,596人、行方不明者18,618人の甚大な被害が発生しました。

AMDAは、5月12日被災情報収集後、同月14日から6月30日まで、台湾支部を中心とした医療チーム（医療職27人、調整員他8人）を派遣し、被災者への診療、医薬品の配布、心理カウンセラーの養成を行いました。活動中診察した患者数は、2,418人。心理療法に関する活動に参加したのは、452人でした。

8月23日から27日は四川省綿陽市で被災者への健康診断を実施。家族を失った子どもや家屋損壊のため親戚宅での生活を強いられている人への診療も行いました。9月1日から9月8日には、地震の復興支援として、また、8月30日に発生した地震（四川省攀枝花市）の緊急救援として、血圧計と血糖値測定器各170式を12の医療施設に供与しました。

＜協力団体からの声＞

「今回初めてAMDAの救援チームと一緒に活動を行い、良い経験となりました。四川省の被災者救援のために遠くから来られた皆様に心から感謝します。これからもお互いの交流が深まることを期待しています。」(四川省中西医結合医院王副院長・総合外科　宗主任より)

＜派遣者・参加者＞
医師：汪達紘（岡山大学大学院医歯薬総合研究科公衆衛生学分野助教）
調整員：ニティアン・ヴィーラバグ（本部職員）
医師・看護師・調整員他31人
＜協力機関＞
四川大学華西病院、四川省中医薬科学院、四川省中西医結合医院、岡山大学、日中青年交流協会他

■ネパール・インド洪水緊急医療支援活動

活動国・地域：ネパール連邦民主共和国スンサリ郡他、
インド共和国ビハール州
期間：2008年8月21日～10月1日

被災者が避難生活をおくるキャンプでの診療

2008年8月18日、モンスーンの長雨により、ネパール・コシ川のダムが決壊しました。下流に位置するネパール・スンサリ郡/サプタリ郡及びインド・ビハール州で大洪水が発生しました。インド政府の発表によると、ビハール州では9月17日までに死者208人、484万人以上が避難生活を余儀なくされる被害が発生しました。一方、ネパールでは、10月3日までに7万人が被災しました。

インド・ビハール州の被災者に対して、AMDAは、9月10日から21日まで多国籍医師団（インド支部7人、ネパール支部2人、岡山本部1人）を派遣し、保健所での診療と、避難所16ヵ所で巡回診療を行いました。道路や橋の崩壊、移動車両の故障などにより支援活動に支障がでるなか、2,578人の被災者を診療しました。主な症例は、呼吸器疾患、下痢、筋肉痛でした。

ネパール・スンサリ郡の被災者に対しては、ネパール支部が、8月21日から9月16日まで避難キャンプに仮設診療所を開設し、支部から派遣された延べ36人の医療スタッフが1,813人の患者を診療しました。主な症例は、急性咽頭炎、発熱、下痢・赤痢、気管支炎、寄生虫感染でした。また、カイラリ郡の被災者に対しては、9月26日から10月1日までネパール支部の医療スタッフ6人が巡回診療を実施し、1,034人を診療しました。

＜派遣者の声＞
「ビハール州で過ごした10日間、人びとを癒し、患者と気持ちを分かち合いました。大変痛ましい人生がそこにありました。」（AMDAネパール支部ラジェンドラ内科医より）

＜派遣者＞　調整員：藤本明子（本部職員）
インド支部（7人）・ネパール支部（38人）

＜協力機関＞　インド・マニパール・カスツルバ医科大学他

■ホンジュラス洪水被害に対する緊急支援活動

活動国・地域：ホンジュラス共和国エルパライソ県
期間：2008年10月27日～29日

被災者の血圧を測る渡辺事業統括/看護師

2008年10月16日、熱帯低気圧16号がホンジュラス北部に上陸し、豪雨による河川の氾濫、洪水、土砂崩れによる被害が発生しました。ホンジュラス緊急事態対処常設委員会は、10月24日時点で、死者30人、避難者5万5千人、被災者67万6千人と被害状況を発表しました。
AMDAは、10月24日、同国で社会開発事業を実施し、首都テグシガルパに事務所を置くグループ団体、AMDA社会開発機構の渡辺事業統括を調査のため派遣しました。調査を実施したダンリ市では、死者3人、2,300人以上が被災し、679人が避難生活を送っていました。

保健省エルパライソ県保健地域事務所の要請により、AMDAの緊急医療支援チームは、10月27日から29日の3日間、同県ダンリ市内の被災地で巡回診療を行いました。27日はビジャ・リカ村の公民館で161人、28日はラ・リマ・デ・エスクァパ村の小学校で143人を診療しました。29日には、オホ・デ・アグア・マタサノ村で家庭訪問を実施し、51人を診療しました。3日間の診療患者数は355人で、主な疾患は、寄生虫症、急性呼吸器感染症、貧血でした。診療に加えて、巡回診療用に購入した医薬品在庫をエルパライソ県保健事務所とアクセス不可能なトロヘス市緊急事態対処常設委員会へ供与しました。

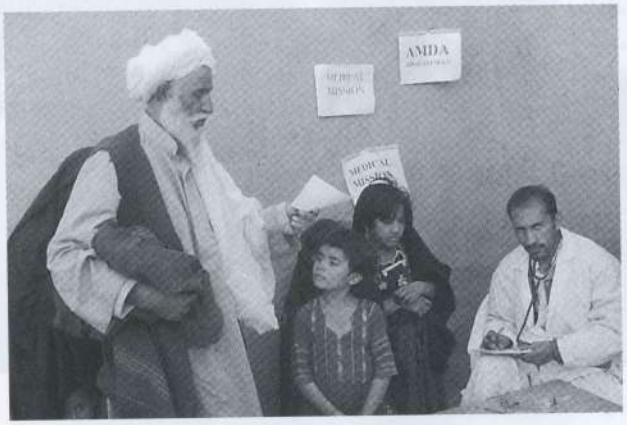
＜協力機関からの声＞
「緊急事態の発生により、地方行政、軍隊、保健省、市民団体が協力体制をとり、事態の把握、災害復興へ取り組んでいる中、AMDAが迅速に医療活動を開始したことに対し感謝いたします。」（エルパライソ県保健地域事務所 カルミンダ・ソサ医師より）

＜活動参加者＞
事業統括/看護師：渡辺咲子（AMDA社会開発機構）
医師・看護師他11人

＜協力機関＞
保健省エルパライソ県保健地域事務所

■パキスタン西部地震被害に対する緊急支援活動

活動国・地域：パキスタン・イスラム共和国バロチスタン州、アフガニスタン・イスラム共和国カンダハル州
期間：2008年11月9日～12日、11月22日～12月3日



アフガニスタン・カンダハルでの巡回診療

2008年10月29日早朝、パキスタン・イスラム共和国西部バロチスタン州でマグニチュード6.4の地震が発生し、パキスタン政府によると、11月7日時点で死者166人、負傷者370人の被害が発生しました。

AMDAは、パキスタンの被災者支援として、パキスタン支部から外科医4人を中心とする医療チームを、被害の大きかったジアラット地区に派遣しました。チームは、11月9日から12日まで滞在し、地元当局によって設置された避難所内のテントクリニックで約75人の患者を診療しました。災害後に顕著な、鬱や興奮、不眠の症状が多くみられました。また、医薬品の配布を地元保健局に寄贈しました。

アフガニスタンの被災者に対しては、アフガニスタン支部の医療チームを、11月22日から12月3日まで派遣し、パキスタンとの国境沿いに位置するアフガニスタンカンダハル州で巡回診療を実施しました。6日間に、392人（男性147人・女性245人）を診療しました。主な疾患は、感冒、急性呼吸器疾患、下部尿路感染症、下痢でした。

＜派遣者＞
調整員　ニティアン・ヴィーラバグ（本部職員）
パキスタン支部
アフガニスタン支部
＜協力機関＞
パキスタン・バカイ医科大学病院、アフガニスタン・アフガン保健・開発サービス（AHDS）他

復興支援

■ソロモン諸島津波災害復興支援事業

（平成19年度外務省日本NGO連携無償資金協力事業）

活動国・地域：ソロモン諸島ウェスタン州
期間：2007年10月26日～2008年10月10日

ワクチン保冷用冷蔵庫他をソロモン諸島保健省に寄贈

2007年4月2日、ソロモン諸島ギゾ島沖においてM 8.1の地震と津波が発生し、ウェスタン州の沿岸部は甚大な被害を受けました。AMDAは緊急医療支援活動に続き、復興支援として、同年7月に現地調査を実施しました。食糧と水の慢性的な不足、衛生施設の損壊などにより、発災後3ヶ月が経っても住民の生活環境は劣悪なままであることが分かりました。更に、津波によるワクチン保管用冷蔵庫の破損・故障により、被災地のウェスタン州では予防接種率の低下が避けられない状況であることも確認しました。同州の基幹病院であるギゾ病院は、コールドチェーン資機材の補給基地として機能してきましたが、津波被害で5台あったワクチン保管用冷蔵庫のうち4台が破損あるいは故障しました。
コールドチェーンの断絶は、被災地であるなしに関わらず、ウェスタン州住民全員の健康を維持する上で脅威となっていたことから、ソーラー式ワクチン保冷用冷蔵庫、コールドボックス、ワクチンキャリアーをウェスタン州の8つ保健診療所に供与しました。この事業は、平成19年度外務省「日本NGO連携無償資金協力事業」として、2007年10月に開始し、2008年10月に終了しました。

＜派遣者＞　調整員：館野和之（本部職員）
＜協力機関＞　ソロモン諸島保健省他

診療所建設

■インド・クリニック建設事業

AMDAは、1993年10月のインド西部大地震緊急救援プロジェクト以来、サイクロン、地震等の自然災害の被災者に対して、さまざまな支援活動をインド国内で実施してきました。これらの活動を通じて、同国では仏教徒が1％以下の少数派であり、カースト制度の貧困層に位置することをわかりました。仏教徒の多く住むビハール州ブッダガヤは、仏教の聖地であり、世界遺産に登録される観光地としても知られています。一方で、医療事情は劣悪であることから、AMDAは、貧困層への支援策として貧困層でも利用できるクリニック建設構想を温めてきました。2008年9月、インド支部長カマト医師のもとで運営される「AMDAピースクリニック」の建設を開始し、2009年11月の完成を予定しています。クリニックの完成により、ブッダガヤの貧困層のみならず全ての住民がインドの伝統医学であるアユールベーダと西洋医学を合わせた医療サービスを利用できる予定です。

国内防災

■平成20年度静岡県総合防災訓練・広域医療搬送訓練

場所：静岡県志太郡大井川町、航空自衛隊静浜基地
期間：平成20年8月31日（活動準備・打ち合わせ）
　　9月1日（訓練）

広域医療搬送拠点では、重症患者を安定化処置後、搬送する

9月1日、「防災の日」に、東南海大地震を想定した静岡県総合防災訓練に参加しました。90年代半ばからほぼ毎年のように参加している総合防災訓練ですが、近年は、「広域医療搬送訓練」訓練に参加してきました。大規模な地震災害では、重症患者が急増し、被災地内の病院だけでは治療が行えなくなるため、被災地外の拠点病院に患者を搬送し治療する必要があります。重症患者をトリアージし、安定化処置を施した後、被災地外に搬送する広域医療搬送訓練に、DMATと共に参加しました。

2008年度の訓練は、静岡県中央部にある航空自衛隊静浜基地に設置された広域医療搬送拠点に、本部職員とERネットワーク登録医療従事者から構成される医療チーム（医師1人、看護師2人、調整員2人の計5人）が入り、重症患者の受け入れ、安定化処置、搬送を静岡県やDMATと協力・連携しました。

この訓練は、ERネットワーク登録者の医療活動訓練の機会となっています。

＜参加者の声＞
「これほど大規模な防災・広域医療搬送訓練に参加できることはあまりないと思う。他県のDMATの方々と活動できたことは、いい経験になった。」（田中看護師）
「今回の訓練を勤務する病院でも活かしていきたい。」（細村医師）

＜参加者＞
医師：細村幹夫（埼玉県・医療法人康麗会　越谷誠和病院／ERネットワーク登録）
看護師：田中桂（滋賀県・ERネットワーク登録）
看護師：山田裕子（神奈川県・洛西ニュータウン病院／横浜市立病院／ERネットワーク登録）
調整員：奥谷充代（本部職員）
調整員：谷口敬一郎（本部職員）

セミナー開催

■第5回公開講座　災害セミナー　岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」

実施日時：2008年8月31日13時～17時30分
実施場所：岡山国際交流センター　国際会議場

プログラム：
第一部　ミャンマーサイクロン緊急医療支援活動について－本部事業担当、派遣医師、協力団体それぞれの立場から
小西司/AMDA技術協力部長、寺戸通久/岡山大学医療教育総合センター助教、岡田茂/岡山大学名誉教授
第二部　中国四川省大地震緊急医療支援活動について－
藤本明子/AMDA緊急救援コーディネーター、汪達紘/岡山大学大学院医歯薬学総合研究科助教
第三部　今後の展望と課題
鈴木俊介/AMDA社会開発機構理事長
◆海外緊急医療支援活動として、ミャンマーサイクロンと中国四川省地震被害者に対する緊急医療支援活動の事例を紹介。大学院生20人を含む約60人が参加しました。

■国際保健セミナー in Okayama-「人間の安全保障」からみた三大感染症への新たな提言

主催：特定非営利活動法人AMDA、特定非営利活動法人AMDA社会開発機構
協力：財団法人日本国際交流センター、世界基金支援日本委員会
実施日時：5月26日(月)　14時～17時
実施場所：ホテルグランビア岡山　クリスタルの間

プログラム：
第1セッション　三大感染症への新たなビジョン
Ms. Caroline KAYONGA キャロライン・カヨンガ（ルワンダ保健省事務次官）
Dr. Sin SOMUNY　シン・ソムニー（MEDiCAM事務局長）
Dr.Christoph BENN　クリストフ・ベン
（世界エイズ・結核・マラリア対策基金渉外担当ディレクター）

第2セッション
現場の取り組みについて
AMDA-MINDSよりホンジュラス事業の紹介
岡山での感染症の取り組み・エイズ
　岡山市保健所　所長　中瀬克己氏
岡山での感染症の取り組み・マラリア
　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(薬学系)　博士研究員　平本晃子氏
岡山での感染症の取り組み・結核
　独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター　統括診療部長　多田敦彦氏

◆三大感染症であるエイズ・結核・マラリアに対する世界での取り組みと岡山での取り組みについてセミナーを開催。約70人が参加しました。

＜AMDA高校生会2008年度活動年表＞

2008年4月	高校生会パンフレット作成 あすか健康村フェスティバル参加（ホンジュラス支援呼びかけ）
5月	『国際ソロプチミスト岡山愛の基金』の助成金取得 エイズ予防啓発・性感染症の薬支援活動として活用
6月	広島県立福山誠之館高校文化祭 ホンジュラスのパネル展示、募金活動／校内弁論大会にてAMDAの活動報告
7月	エイズ予防啓発バッジのデザイン作成
8月	RSKラジオ「おかやま朝まるステーション1494」出演
9月	街頭募金活動参加（RSKキャンペーン） 岡山県立総社南高校からCD、ゲームソフトの物品寄付受領
10月	岡山大学保健学科の学生と交流会
11月	岡山大学祭にて、岡山大学応援団総部吹奏楽団とオータムコンサート参加
12月	街頭募金活動参加（RSKキャンペーン） 国際理解セミナー「国際協力と私たち」
2009年2月	AMDA25周年記念あすか健康村音楽祭にて募金活動
3月	募金活動参加（RSKキャンペーンチャリティコンサート）

AMDA高校生会ブログ：http://amda-teens.jugem.jp/

2008年度（2008年4月～2009年3月）その他の動き

4月1日	高知クラブ設立	高知大学医学部の高杉尚志先生が中心となり設立
4月20日	あすか健康村フェスティバル参加	AMDA本部のある平津学区連合町内会他が実行委員会を組織し、健康福祉相談やバザーなどを開催するフェスティバルに参加
5月30日～6月8日	アユルヴェーダ研究事業①	岡山大学医歯薬学総合研究科長寿社会医学講座との共同研究事業。インド支部長であり、インドの伝統医療アユルヴェーダの専門家でもあるカマト医師を招聘
6月	モンゴル　AMDA医療と魂のプログラム	日本から大本教と天理教、モンゴルからモンゴル仏教の宗教者が参加し、第二次大戦中の戦没者に対する慰霊祭を開催
7月	アフガニスタン支部設立	2001年以降のアフガニスタン難民支援に関わったカウンターパートが中心となって設立
8月15日～9月23日	アユルヴェーダ研究事業②	岡山大学温泉医療センター（鳥取県三朝）でアユルヴェーダ治療を実施
12月20日～21日	大阪「ワン・ワールド・フェスティバル」ブース出展	「ワン・ワールド・フェスティバル」に出展。ミャンマーサイクロン緊急支援活動に参加した細村医師が活動について報告
1月16日～17日	ネパール子ども病院10周年記念式典及び合同慰霊祭	阪神大震災の被災者と毎日新聞社の協力で建設された「母と子の病院（ネパール・ブトワール市）」の10周年を記念する式典に、菅波代表と兵庫県支部メンバーが出席。子ども病院で亡くなった母子と阪神大震災で亡くなった方の為の合同慰霊祭では、日本から真言宗の住職とともにネパール仏教をはじめとする地元宗教者が祈りをささげた。
2月1日	竹原クラブ設立	2004年12月のインド洋大地震津波の支援でインドネシア・アチェの病院支援活動に参加した安田麻衣子医師が中心となり設立
2月13日～14日	2009年緊急救援研修プログラム協力協定締結	インド・カルナタカ州にて、同国マニパール大学、岡山大学、AMDAの間で締結。プログラムを通じて、自然災害などを想定した緊急救援活動に従事する人材の育成に努めることに合意
2月20日	AMDA設立25周年記念「あすか健康村音楽祭」開催	岡山シンフォニーホールにて開催。ピアニストの熊本マリさんや太鼓やパンフルートなど地元の演奏家がボランティアで演奏。1800人が来場
3月16日～18日	国連経済社会理事会「保健医療財務戦略に関わる地域閣僚会議」出席	スリランカ民主社会主義共和国コロンボにて開催された会議に菅波代表とスリランカ支部サマラゲ支部長が出席
3月27日	台湾国際医療支援チーム（Taiwan IHA）との災害協定締結	台湾政府と民間の医療資源を統合した国際医療支援組織、台湾国際医療支援チームと災害協定を締結

＜平成20年度　決算報告＞

平成20年度も多くの皆さまの温かい御支援により事業を実施することが出来ました。ここに御礼と共に御報告申し上げます。

特定非営利活動法人　アムダ（AMDA）

収支計算書

自2008年4月1日　至2009年3月31日　　（単位：円）

科目	金額	
Ⅰ　収入の部		
寄付金収入		153,755,570
会費収入		10,744,500
事業収入		342,119
販売収入		666,000
その他収入		165,523
当期収入合計		165,673,712
Ⅱ　支出の部		
事業費		
緊急救援事業費	55,285,418	
中期復興支援事業費	2,646,788	
海外事業費	46,505,616	
日本国内事業費	9,334,315	113,772,137
共通管理費		22,120,589
当期支出合計		135,892,726
当期収支差額		29,780,986
前期繰越収支差額		90,499,132
次期繰越収支差額		120,280,118

平成20年度
特定非営利活動法人アムダ
（AMDA）
決算報告に関する監査報告書

自　平成20年4月1日
至　平成21年3月31日

上記の決算報告書は、監査の結果適正にして妥当なものと認めます。

平成21年6月16日

監事　竹元武士

監事　田村政志

貸借対照表

2009年3月31日現在　　（単位：円）

資産の部		負債の部	
科目名	金額	科目名	金額
Ⅰ流動資産	127,013,125	流動負債	3,024,193
現金	4,729,741	未払金	2,977,431
預金	119,779,553	預り金	46,762
棚卸資産	1,848,736		
未収金	331,210	引当金	4,419,610
仮払金	323,885	プロジェクト引当金	4,419,610
Ⅱ固定資産	710,796	負債合計	7,443,803
有形固定資産	500,796		
車両運搬具	500,000	正味財産の部	
器具備品	3,067,228		
減価償却累計額	▲3,066,432	正味財産	120,280,118
投資その他の資産	210,000	（うち当期正味財産増加額）	29,780,986
敷金	210,000		
資産合計	127,723,921	負債及び正味財産合計	127,723,921

特定非営利活動法人アムダ：AMDA 役員名簿

理事長　菅波　茂
（医）アスカ会理事長

副理事長　的野　秀利
公設国際貢献大学校校営管理者

理事　小嶋　光信
両備ホールディングス（株）
代表取締役社長

理事　日南　香
元岡山県議会議員

理事　菅波　知子
（社福）遊々会理事長

理事　中西　泉
（医社）慶泉会理事長
町田慶泉病院院長

理事　鈴木　俊介
アスカワールドコンサルタント
（株）代表取締役

監事　田村　政志
（株）中国銀行常勤監査役

監事　竹元　武士
（社福）新見市社会福祉協議会会長

2008年度　Flash

インド　緊急救援プログラム
協力協定締結

ネパール子ども病院10周年式典

AMDA設立25周年　「あすか健康村音楽祭」

高知クラブ設立認証書授与

＜AMDA団体概要＞

所在地：〒701-1202　岡山県岡山市北区楢津310-1
設立年月：1984年8月
理事長：菅波　茂（AMDAグループ代表）
活動国：ミャンマー、中国、インドネシア、パキスタン、 アフガニスタン、インド、ネパール、ソロモン諸島、モンゴル　他
海外活動：
1. 緊急支援活動：難民や自然災害被災者への医療支援や救援物資の配布（ミャンマー、中国、ネパール、インド、ホンジュラス、パキスタン、アフガニスタン）
2. 復興支援活動：自然災害からの中期的な復興支援（ソロモン諸島）
3. 保健医療活動：診療所建設（インド）

国内活動：
1. セミナー開催
2. 国内防災対応（防災訓練）
3. 出張講義

事務局スタッフ数：　常勤7人、非常勤5人
会員数：1187人